

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-114603

(P2017-114603A)

(43) 公開日 平成29年6月29日 (2017.6.29)

(51) Int.Cl.
B 6 6 B 11/02 (2006.01)F 1
B 6 6 B 11/02テーマコード (参考)
3 F 3 0 6

審査請求 有 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2015-249895 (P2015-249895)
(22) 出願日 平成27年12月22日 (2015.12.22)(71) 出願人 390025265
東芝エレベータ株式会社
神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34
(74) 代理人 110002147
特許業務法人酒井国際特許事務所
(72) 発明者 野澤 基明
神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34
東芝エレベータ株式会社内
Fターム (参考) 3F306 CB02 CB56

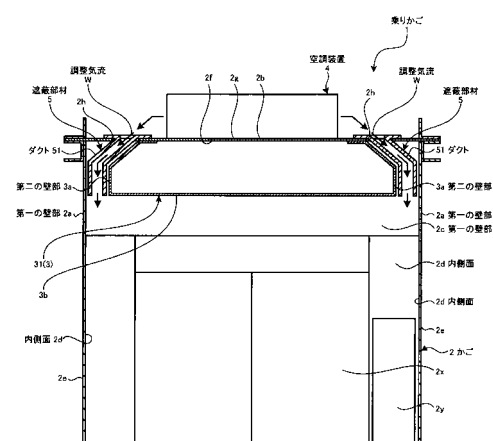
(54) 【発明の名称】 エレベータの乗りかご

(57) 【要約】

【課題】例えば、結露が生じ難い乗りかごを得る。

【解決手段】実施形態のエレベータの乗りかごは、例えば、第一の壁部と、第二の壁部と、遮蔽部材と、を備える。第一の壁部は、かごの内側面を構成する。第二の壁部は、第一の壁部と間隔をあけて設けられる。遮蔽部材は、第一の壁部と第二の壁部との間に設けられ、空調装置で調整され第一の壁部と第二の壁部との間に吹き出された調整気流が第一の壁部または第二の壁部に当たるのを遮る。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

かごの内側面を構成する第一の壁部と、
前記第一の壁部と間隔をあけて設けられた第二の壁部と、
前記第一の壁部と前記第二の壁部との間に設けられ、空調装置で調整され前記第一の壁部と前記第二の壁部との間に吹き出された調整気流が前記第一の壁部または前記第二の壁部に当たるのを遮る遮蔽部材と、
を備えた、エレベータの乗りかご。

【請求項 2】

前記遮蔽部材は、ダクトを含む、請求項 1 に記載のエレベータの乗りかご。

10

【請求項 3】

前記遮蔽部材と前記第一の壁部または前記第二の壁部との間に、隙間が設けられた、請求項 1 または 2 に記載のエレベータの乗りかご。

【請求項 4】

前記遮蔽部材は、断熱材によって構成された、請求項 1 ～ 3 のうちいずれか一つに記載のエレベータの乗りかご。

【請求項 5】

かごの内側面を構成する第一の壁部と、
前記第一の壁部と間隔をあけて設けられ、当該第一の壁部との間に空調装置で調整された調整気流が吹き出されるよう構成された第二の壁部と、
前記第一の壁部および前記第二の壁部のうち少なくとも一方に設けられた電熱線と、
を備えた、エレベータの乗りかご。

20

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明の実施形態は、エレベータの乗りかごに関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、空調装置が設けられたエレベータの乗りかごが知られている。

【先行技術文献】

30

【特許文献】**【0003】**

【特許文献 1】特開 2007-31088 号公報

【発明の概要】**【発明が解決しようとする課題】****【0004】**

この種の乗りかごでは、例えば、空調装置からかご内に吹き出された冷風が乗りかごの壁部に当たって壁部が冷やされることにより、結露が生じてしまう虞があった。すなわち、結露が生じ難い乗りかごが得られれば、好ましい。

【課題を解決するための手段】

40

【0005】

実施形態のエレベータの乗りかごは、例えば、第一の壁部と、第二の壁部と、遮蔽部材と、を備える。第一の壁部は、かごの内側面を構成する。第二の壁部は、第一の壁部と間隔をあけて設けられる。遮蔽部材は、第一の壁部と第二の壁部との間に設けられ、空調装置で調整され第一の壁部と第二の壁部との間に吹き出された調整気流が第一の壁部または第二の壁部に当たるのを遮る。

【図面の簡単な説明】**【0006】**

【図 1】図 1 は、第 1 実施形態のエレベータの乗りかごの例示的かつ模式的な概略構成図（側面図、一部断面図）である。

50

【図 2】図 2 は、図 1 の一部の例示的かつ模式的な断面図である。

【図 3】図 3 は、第 2 実施形態のエレベータの乗りかごの一部の例示的かつ模式的な断面図である。

【図 4】図 4 は、第 3 実施形態のエレベータの乗りかごの一部の例示的かつ模式的な断面図である。

【図 5】図 5 は、第 4 実施形態のエレベータの乗りかごの一部の例示的かつ模式的な断面図である。

【図 6】図 6 は、第 4 実施形態のエレベータの乗りかごの電熱線の例示的かつ模式的な正面図である。

【発明を実施するための形態】

10

【0007】

以下、本発明の例示的な実施形態が開示される。以下に示される実施形態の構成、ならびに当該構成によってもたらされる作用および結果（効果）は、一例である。

【0008】

また、以下に開示される複数の実施形態には、同様の構成要素が含まれる。よって、以下では、それら同様の構成要素には共通の符号が付与されるとともに、重複する説明が省略される。

【0009】

< 第 1 実施形態 >

図 1 に示されるように、乗りかご 1 は、例えば、かご 2 と、照明ユニット 3 と、空調装置 4 と、遮蔽部材 5 と、を備える。乗りかご 1 は、鉛直方向、すなわち図 1 の上下方向に沿って延びたエレベータの昇降路内を移動可能に設けられている。

20

【0010】

かご 2 は、例えば、鉛直方向に縦長の直方体の箱状に構成されている。かご 2 は、複数の壁部 2 a ~ 2 c を有する。本実施形態では、一对の壁部 2 a が図 1 の左右方向に間隔をあけて互いに平行に設けられ、一对の壁部 2 c が図 1 の紙面と垂直な方向に間隔をあけて互いに平行に設けられている。壁部 2 a、2 c は、側壁部等と称されうる。壁部 2 a、2 c は、それぞれ、かご 2 の内側を向いた面 2 d と、かご 2 の外側を向いた面 2 e と、を有する。本実施形態では、壁部 2 a、2 c は、第一の壁部の一例であり、面 2 d は、内側面の一例である。

30

【0011】

また、壁部 2 c のうち図 1 に示される一方には、乗りかご 1 側の扉 2 x や、操作部 2 y 等が設けられている。扉 2 x は、壁部 2 c に設けられた開口部（不図示）を開閉可能に覆う。扉 2 x は、スライドドアである。扉 2 x は、図 1 の左右方向に沿って、閉位置（図 1 参照）と開位置（不図示）との間で移動する。また、操作部 2 y には、扉 2 x の開閉ボタンや、行先階ボタン（かご呼びボタン）等が設けられている。

【0012】

また、本実施形態では、一对の壁部 2 b が図 1 の上下方向に間隔をあけて互いに平行に設けられている。壁部 2 b のうち図 1 に示される一方は、上壁部や天壁部等と称され、他方は、下壁部や底壁部等と称されうる。壁部 2 b は、それぞれ、かご 2 の内側を向いた面 2 f と、かご 2 の外側を向いた面 2 g と、を有する。図 1 に示されるように、本実施形態では、空調装置 4 は、壁部 2 b（上壁部）の面 2 g に取り付けられている。

40

【0013】

また、図 2 にも示されるように、壁部 2 b（上壁部）には、空調装置 4 からの調整気流 W をかご 2 内に取り込むための開口部 2 h が設けられている。開口部 2 h は、例えば、壁部 2 b の縁部に沿って延びた四角形状または円形状の貫通孔である。本実施形態では、開口部 2 h は、空調装置 4 の図 1 の左右両側の二箇所と、空調装置 4 の図 1 の紙面と垂直な方向の両側の二箇所と、の合計四箇所に設けられている。壁部 2 a ~ 2 c は、例えば、金属材料等によって構成されうる。

【0014】

50

照明ユニット 3 は、例えば、壁部 3 a や壁部 3 b 等を有した吊り部材 3 1 と、照明器具（不図示）と、を有する。図 1 に示されるように、壁部 3 b は、壁部 2 b（上壁部）の下方に位置され、当該壁部 2 b に沿って延びている。壁部 3 b は、下側天井や第一天井等とも称され、壁部 2 b（上壁部）は、上側天井や第二天井等とも称されうる。すなわち、本実施形態では、乗りかご 1 は、これら壁部 3 b および壁部 2 b によって、二重天井となっており、これら壁部 3 b と壁部 2 b との間の空間部に、照明器具が設けられている。照明器具から照射された光は、例えば、壁部 3 b に設けられた光透過部（不図示）を透過することにより、かご 2 内が照らされる。壁部 3 b は、かご 2 の天壁部と称されうるとともに、照明ユニット 3 の底壁部とも称されうる。また、壁部 3 a は、照明ユニット 3 の側壁部と称されうる。

10

【0015】

また、壁部 3 a は、かご 2 の内側で壁部 2 a, 2 c と間隔をあけて設けられている。壁部 3 a は、全体としては、壁部 2 a, 2 c に沿った角筒状（角管状）に構成されている。図 2 に示されるように、壁部 3 a は、例えば、第一の部分 3 a 1 や、第二の部分 3 a 2、第三の部分 3 a 3 等を有する。第一の部分 3 a 1 は、壁部 3 b の周縁部から、上方に突出している。第一の部分 3 a 1 は、壁部 2 a, 2 c よりもかご 2 の内側に位置され、壁部 2 a, 2 c に沿って延びている。

【0016】

壁部 3 a の第二の部分 3 a 2 は、第一の部分 3 a 1 よりもかご 2 の内側かつ上側に位置され、壁部 2 b に沿って延びている。第二の部分 3 a 2 は、壁部 2 b（上壁部）の面 2 f と重ねられている。第二の部分 3 a 2 は、フランジ部の一例である。第二の部分 3 a 2 と壁部 2 b とは、例えば、ねじ等の結合具によって互いに結合される。これにより、照明ユニット 3 とかご 2 とが、互いに一体化される。

20

【0017】

壁部 3 a の第三の部分 3 a 3 は、第一の部分 3 a 1 の上側の端部と、第二の部分 3 a 2 の壁部 2 a, 2 c 側の端部とを接続している。第三の部分 3 a 3 は、傾斜部の一例である。すなわち、第三の部分 3 a 3 は、壁部 2 b に対して傾斜している。第三の部分 3 a 3 は、上方に向かうにつれて、すなわち壁部 2 b に近づくにつれて、壁部 2 a, 2 c から遠ざかる方向に延びている。図 2 の視線で、第三の部分 3 a 3 と壁部 2 b との交わる角度（狭い方の角度）は、 1° 以上 90° 未満の鋭角である。本実施形態では、壁部 3 a は、第二の壁部の一例である。

30

【0018】

空調装置 4 は、例えば、冷暖房装置として構成されている。図 1 に示されるように、かご 2 の外側で空調装置 4 から吐出された冷風や温風等の調整気流 W は、開口部 2 h を介して、かご 2 内へと供給される。なお、空調装置 4 の周囲には、例えば、調整気流 W を開口部 2 h へと案内するダクト等の案内部材（不図示）が設けられうる。

【0019】

遮蔽部材 5 は、例えば、ダクト 5 1 として構成されている。本実施形態では、開口部 2 h に対応して、複数（例えば、四つ）のダクト 5 1 が、壁部 2 a, 2 c と壁部 3 a との間の空間部に設けられている。ダクト 5 1 は、全体としては、壁部 3 a に沿って延びた筒状に構成されている。図 1, 2 に示されるように、空調装置 4 から吐出された調整気流 W は、このダクト 5 1 の筒内を通過して、かご 2 内へと供給される。すなわち、本実施形態では、ダクト 5 1 によって、調整気流 W が壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a に当たるのが遮られている。

40

【0020】

また、図 2 に示されるように、ダクト 5 1 は、例えば、壁部 3 a の第一の部分 3 a 1 に沿った吹出部 5 1 a や、第二の部分 3 a 2 に沿ったフランジ部 5 1 b、第三の部分 3 a 3 に沿った傾斜部 5 1 c 等を有する。フランジ部 5 1 b は、壁部 2 b（上壁部）の面 2 g と重ねられている。フランジ部 5 1 b は、例えば、ねじ等の結合具によって、壁部 2 b および第二の部分 3 a 2 とともに結合されうる。これにより、ダクト 5 1 とかご 2 および照明

50

ユニット 3 とが、互いに一体化される。

【0021】

また、本実施形態では、ダクト 5 1 が壁部 2 b に取り付けられた状態では、ダクト 5 1 と壁部 2 a, 2 c との間、およびダクト 5 1 と壁部 3 a との間のそれぞれに、隙間 S が設けられている。隙間 S は、断熱層の一例である。ダクト 5 1 は、壁部 2 a ~ 2 c (金属材料) よりも比熱が高い部材で構成され、好適には断熱材である。ダクト 5 1 は、例えば、合成樹脂材料により構成されうる。

【0022】

また、ダクト 5 1 の吹出部 5 1 a には、部分的に、壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a と接触する突出部 5 1 d (ボス部) が設けられている。これにより、ダクト 5 1 と壁部 2 a, 2 c との間や、ダクト 5 1 と壁部 3 a との間等に、隙間 S が確保されやすくなる。なお、隙間 S には、当該隙間 S を保持するためのスペーサ部材等が設けられてもよい。この場合、スペーサ部材は、好適には断熱材によって構成される。

【0023】

以上のように、本実施形態では、例えば、乗りがご 1 は、かご 2 の面 2 d (内側面) を構成する壁部 2 a, 2 c (第一の壁部) と、壁部 2 a, 2 c と間隔をあけて設けられた壁部 3 a (第二の壁部) と、壁部 2 a, 2 c と壁部 3 a との間に設けられ、空調装置 4 で調整され壁部 2 a, 2 c と壁部 3 a との間に吹き出された調整気流 W が壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a に当たるのを遮る遮蔽部材 5 と、を備える。よって、本実施形態によれば、遮蔽部材 5 によって、壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a に調整気流 W が当たるのを抑制することができる。例えば、壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a に冷やされた調整気流 W (冷風) が当たり、壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a が冷やされると、かご 2 内の湿度の上昇や、照明ユニット 3 による温度上昇等に伴って、結露が生じる虞がある。この点、本実施形態によれば、遮蔽部材 5 によって、壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a に冷やされた調整気流 W が当たるのが抑制されるため、壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a に結露が生じ難くなる。また、遮蔽部材 5 は、壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a に暖められた調整気流 W (温風) が当たるのも抑制することができる。よって、遮蔽部材 5 は、壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a が調整気流 W により暖められることに起因して結露が生じるのも、抑制することができる。よって、本実施形態によれば、遮蔽部材 5 によって結露がより生じ難い乗りがご 1 が得られやすく、ひいては乗りがご 1 のメンテナンス作業の頻度が低減したりしうる。

【0024】

また、本実施形態では、例えば、遮蔽部材 5 は、ダクト 5 1 を含む。よって、本実施形態によれば、例えば、ダクト 5 1 によって、壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a に調整気流 W が当たるのを遮る遮蔽部材 5 が、比較的簡素な構成で実現されうる。また、分割された遮蔽部材 5 が壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a に貼り付けられる場合に比べて、取り付けや取り外しの手間が減る場合もある。

【0025】

また、本実施形態では、例えば、ダクト 5 1 (遮蔽部材 5) と壁部 2 a, 2 c との間、およびダクト 5 1 (遮蔽部材 5) と壁部 3 a との間のそれぞれに、隙間 S が設けられている。よって、本実施形態によれば、例えば、隙間 S が緩衝層 (断熱層) として機能するため、壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a が冷やされたり暖められたりするのがより抑制され、ひいては壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a に結露がより生じ難くなる。

【0026】

また、本実施形態では、例えば、ダクト 5 1 (遮蔽部材 5) は、断熱材によって構成されている。よって、本実施形態によれば、例えば、断熱材によって調整気流 W から壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a への熱伝達が抑制されるため、壁部 2 a, 2 c および壁部 3 a に結露がより一層生じ難くなる。

【0027】

< 第 2 実施形態 >

図 3 に示される実施形態の乗りがご 1 A は、上記第 1 実施形態の乗りがご 1 と同様の構

10

20

30

40

50

成を備えている。よって、本実施形態によっても、上記第1実施形態と同様の構成に基づく同様の結果（効果）が得られる。

【0028】

ただし、本実施形態では、例えば、図3に示されるように、遮蔽部材5Aが被覆部材52として構成されている点が、上記実施形態と相違している。被覆部材52は、それぞれ、壁部2a、2cおよび壁部3aに沿って延びた板状に構成され、当該壁部2a、2cの面2dおよび壁部3aの表面を覆っている。被覆部材52は、例えば、断熱材であり、好適には透明な材料（例えば、合成樹脂材料等）によって構成される。被覆部材52は、シートや、ライナー、カバー、プレート、パネル、貼付部材等とも称されうる。被覆部材52は、例えば、ネジ等の結合具や、両面テープ、接着剤等によって、壁部2a、2cおよび壁部3aと結合される。よって、本実施形態によれば、例えば、被覆部材52によって、壁部2a、2cおよび壁部3aに調整気流Wが当たるのが抑制されるため、壁部2a、2cおよび壁部3aに結露がより生じ難くなる。また、被覆部材52が透明な材料で構成されているため、例えば、被覆部材52が不透明な材料で構成された場合に比べて、美観が損なわれ難く構成できる。

10

【0029】

また、図3に示されるように、本実施形態では、被覆部材52の下端部には、偏向部52a、52bが設けられている。偏向部52a、52bは、例えば、調整気流Wの上流側から下流側に向かって徐々に壁部2a、2cから離れるように傾斜した傾斜面を有したエッジ部である。よって、本実施形態によれば、例えば、偏向部52a、52bによって、調整気流Wを壁部2a、2cから離れる方向にガイドすることができるため、壁部2a、2cに結露がより生じ難くなる。また、かご2内のより広い範囲で、結露が生じ難くなる。なお、本実施形態では、偏向部52a、52bがエッジ部によって構成された場合が例示されたが、これには限定されず、例えば、被覆部材52（遮蔽部材5A）の下端部に、フィンやルーバー等の偏向部材が設けられてもよい。

20

【0030】

<第3実施形態>

図4に示される実施形態の乗りがご1Bは、上記第2実施形態の乗りがご1Aと同様の構成を備えている。よって、本実施形態によっても、上記第2実施形態と同様の構成に基づく同様の結果（効果）が得られる。

30

【0031】

ただし、本実施形態では、例えば、図4に示されるように、被覆部材53（遮蔽部材5B）に、かご2内まで延びた延長部53aが設けられている点が、上記実施形態と相違している。延長部53aの表面53a1は、例えば、意匠面や、着色面、装飾面（処理面）として構成されうる。すなわち、表面53a1には、デザイン、パターン、マーク、模様、絵、図表、文字等が施されうる。本実施形態によれば、例えば、延長部53aによって、壁部2a、2cのより広い範囲で結露が生じ難くなる。また、延長部53aの表面53a1に、デザイン等の処理が施されている分、延長部53aの表面53a1が剥き出しあるいは何らかの処理が施されていない場合に比べて、美観が損なわれ難く構成できる。

【0032】

<第4実施形態>

図5、6に示される実施形態の乗りがご1Cは、上記第1実施形態の乗りがご1と同様の構成を備えている。よって、本実施形態によっても、上記第1実施形態と同様の構成に基づく同様の結果（効果）が得られる。

40

【0033】

ただし、本実施形態では、例えば、図5、6に示されるように、壁部2a、2cの面2e、および壁部3aの裏面に電熱線6が設けられている点が、上記実施形態と相違している。よって、本実施形態によれば、例えば、電熱線6の通電に伴う抵抗加熱により壁部2a、2cおよび壁部3aの温度が上昇するため、壁部2a、2cおよび壁部3aに結露が生じ難くなる。また、例えば、結露により壁部2a、2cおよび壁部3aに付着した水が

50

蒸発するため、壁部 2 a， 2 c および壁部 3 a が結露した状態を比較的速やかに解消できる。なお、電熱線 6 は、上記実施形態の遮蔽部材 5， 5 A， 5 B とともに設置することもできる。この場合、電熱線 6 は、例えば、壁部 2 a， 2 c， 3 a の、遮蔽部材 5， 5 A， 5 B の下縁よりも下方となる位置に、設けてもよい。

【 0 0 3 4 】

以上、本発明の実施形態を例示したが、上記実施形態はあくまで一例であって、発明の範囲を限定することは意図していない。上記実施形態は、その他の様々な形態で実施されることが可能であり、発明の要旨を逸脱しない範囲で、種々の省略、置き換え、組み合わせ、変更を行うことができる。上記実施形態は、発明の範囲や要旨に含まれるとともに、特許請求の範囲に記載された発明とその均等の範囲に含まれる。本発明は、上記実施形態に開示される構成以外によっても実現可能であるとともに、基本的な構成（技術的特徴）によって得られる種々の効果（派生的な効果も含む）を得ることが可能である。また、各構成要素のスペック（構造や、種類、方向、形状、大きさ、長さ、幅、厚さ、高さ、数、配置、位置、材質等）は、適宜に変更して実施することができる。

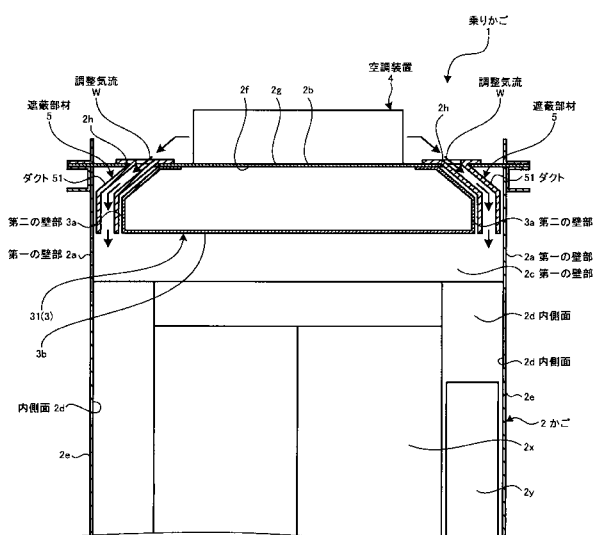
【符号の説明】

【 0 0 3 5 】

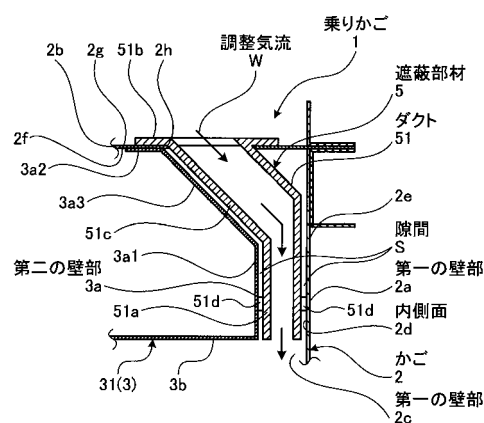
1, 1 A, 1 B, 1 C…乗りがご、2…かご、2 a, 2 c…壁部（第一の壁部）、2 d…面（内側面）、3 a…壁部（第二の壁部）、4…空調装置、5, 5 A, 5 B…遮蔽部材、5 1…ダクト、6…電熱線、S…隙間、W…調整気流。

10

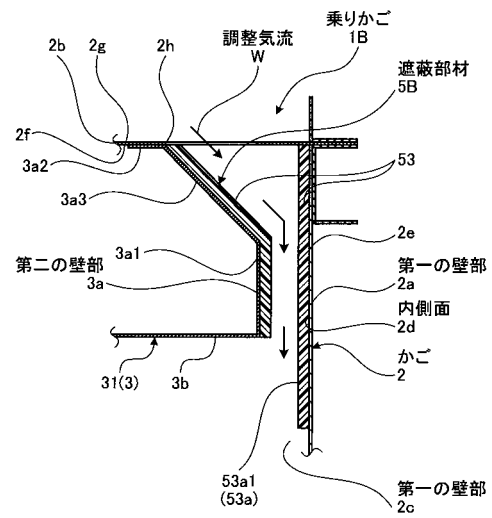
【図 1】



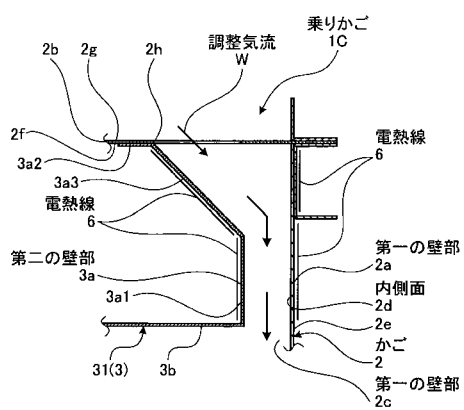
【图 2】



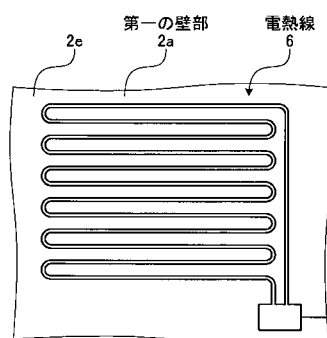
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【手続補正書】

【提出日】平成28年12月14日(2016.12.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

かごの側面を構成する第一の壁部と、
前記第一の壁部と間隔をあけて設けられた第二の壁部と、
前記第一の壁部と前記第二の壁部との間に設けられ、空調装置で調整され前記第一の壁部と前記第二の壁部との間に吹き出された調整気流が少なくとも前記第一の壁部に当たるのを遮る遮蔽部材と、
を備え、
前記遮蔽部材には、前記調整気流の上流側から下流側に向かって前記第一の壁部から離れるように延びた傾斜面が設けられた、エレベータの乗りかご。

【請求項2】

前記遮蔽部材は、ダクトを含む、請求項1に記載のエレベータの乗りかご。

【請求項3】

前記遮蔽部材と前記第一の壁部または前記第二の壁部との間に、隙間が設けられた、請求項1または2に記載のエレベータの乗りかご。

【請求項4】

前記遮蔽部材は、断熱材によって構成された、請求項1～3のうちいずれか一つに記載のエレベータの乗りかご。

【請求項5】

かごの側面を構成する第一の壁部と、
前記第一の壁部と間隔をあけて設けられ、当該第一の壁部との間に空調装置で調整された調整気流が吹き出されるよう構成された第二の壁部と、
前記第一の壁部および前記第二の壁部のうち少なくとも一方に設けられ、当該一方を温めることによって前記調整気流が前記一方に当たることで生じる結露を抑制する電熱線と
、
を備えた、エレベータの乗りかご。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

実施形態のエレベータの乗りかごは、例えば、第一の壁部と、第二の壁部と、遮蔽部材と、を備える。第一の壁部は、かごの側面を構成する。第二の壁部は、第一の壁部と間隔をあけて設けられる。遮蔽部材は、第一の壁部と第二の壁部との間に設けられ、空調装置で調整され第一の壁部と第二の壁部との間に吹き出された調整気流が少なくとも第一の壁部に当たるのを遮る。遮蔽部材には、調整気流の上流側から下流側に向かって第一の壁部から離れるように延びた傾斜面が設けられる。

【手続補正書】

【提出日】平成29年4月6日(2017.4.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

かごの側面を構成する第一の壁部と、
前記第一の壁部と間隔をあけて設けられた第二の壁部と、
前記第一の壁部と前記第二の壁部との間に設けられ、空調装置で調整され前記第一の壁部と前記第二の壁部との間に吹き出された調整気流が少なくとも前記第一の壁部に当たるのを遮る遮蔽部材と、
を備え、

前記遮蔽部材には、前記第二の壁部の第一の下端面と同一平面上に並ぶように位置された第二の下端面と、前記第二の下端面と当該遮蔽部材の前記調整気流側の内面との間に渡って設けられ前記調整気流の上流側から下流側に向かって前記第一の壁部から離れるように延びた傾斜面と、が設けられた、エレベータの乗りかご。

【請求項 2】

前記遮蔽部材は、ダクトを含む、請求項 1 に記載のエレベータの乗りかご。

【請求項 3】

前記遮蔽部材と前記第一の壁部または前記第二の壁部との間に、隙間が設けられた、請求項 1 または 2 に記載のエレベータの乗りかご。

【請求項 4】

前記遮蔽部材は、断熱材によって構成された、請求項 1 ～ 3 のうちいずれか一つに記載のエレベータの乗りかご。

【請求項 5】

かごの側面を構成する第一の壁部と、
前記第一の壁部と間隔をあけて設けられ、当該第一の壁部との間に空調装置で調整された調整気流が吹き出されるよう構成された第二の壁部と、
前記第一の壁部および前記第二の壁部のうち少なくとも一方に設けられ、当該一方を温めることによって前記調整気流が前記一方に当たることで生じる結露を抑制する電熱線と、
を備えた、エレベータの乗りかご。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

実施形態のエレベータの乗りかごは、例えば、第一の壁部と、第二の壁部と、遮蔽部材と、を備える。第一の壁部は、かごの側面を構成する。第二の壁部は、第一の壁部と間隔をあけて設けられる。遮蔽部材は、第一の壁部と第二の壁部との間に設けられ、空調装置で調整され第一の壁部と第二の壁部との間に吹き出された調整気流が少なくとも第一の壁部に当たるのを遮る。遮蔽部材には、第二の壁部の第一の下端面と同一平面上に並ぶように位置された第二の下端面と、第二の下端面と当該遮蔽部材の調整気流側の内面との間に渡って設けられ調整気流の上流側から下流側に向かって第一の壁部から離れるように延びた傾斜面と、が設けられる。